

Case8 (2021.3.8)

10歳未満 女性

主訴:タンパク尿、浮腫

診断名:難治性頻回再発型小児ネフローゼ症候群

関わった医療機関(施設):小児科(腎臓専門医)、漢方クリニック、鍼灸院

患者の家族が鍼灸に対して信頼があったために来院されたケース。漢方クリニックでの煎じ処方と連携による鍼灸の併用により、体調が安定しステロイドの離脱に寄与したと考えられる症例。

寸評:議論は服薬アドヒアランスの問題に及んだ。ステロイドや免疫抑制剤といった薬に対する一般的な印象から、特に子供への処方を嫌がる親に遭遇するケースは鍼灸院では多い。当症例の報告者は、経験があり、医療者の専門性を熟知している事から、患者に対し医師との服薬アドヒアランスを高めるための会話に徹したとのことであった。このあたりの鍼灸師の会話の取り方は当研究会でも度々議論になっている。

また、漢方と鍼灸は車の両輪と喩えられてきたように、併用がお互いを補完し合う可能性に期待し今後の報告を待ちたい。